

明治後期における保育者の資質の考察

ー京阪聯合保育會雑誌の幼稚園保姆資格試験内容を中心にー

柿岡玲子（安田女子短期大学）

A Study of the Qualities of Childcare Workers in the Late Meiji Era. ー Focus on the Contents of the Kindergartner's Examination in Keihan Childcare Magazine ー

Reiko Kakioka (Yasuda Women's College)

保育者の資質については、現在も多面的な研究が行われている。本研究では、明治後期に発刊された「京阪聯合保育會雑誌」に掲載されている大阪府の保姆検定試験問題の項目及び内容から、当時の保育者が求められていた学力や資質について考察した。また、当時の状況を踏まえるため、比較対象として園数や保姆の数、園児数などを全国と大阪府について文部省年報から抽出した。

キーワード：保育者の資質・京阪聯合保育會雑誌¹⁾・幼稚園保姆検定試験(大阪府)

1. はじめに

本研究において「保育者」という名称を使用した。明治後期においては、幼稚園教諭を「幼稚園保姆」と呼んでいた。ここでは「保姆」という名称について、まず触れておきたい。

本研究では「幼稚園保姆」を“Kinder gartner”と英文表記した。これについては1887(明20)年の『女学雑誌』に掲載された“The Qualifications of a kindergartner”と題した亀山ていの英文の寄稿²⁾を使用した。

幼稚園教育の端緒は、学制が頒布されて間もない1876年である。ただ保育内容は我が国の幼児のための保育というよりも、幼児教育に関する文献を翻訳・実践した恩物中心の画一的保育であった。しかし、明治後期になると幼児のための唱歌集である「幼稚園唱歌」³⁾や翻訳によらない我が国独自の幼児教育書である『幼稚園保育法』⁴⁾が東基吉によって著され、我が国独自の幼児教育の模索が始まった。

そこで本研究は、人的環境としての保育者(保姆)の資質について、明治後期の保育雑誌に検定試験内容が公開されている大阪府の保姆試験問題の科目および試験内容を抽出し、その内容を比較検討し、明治後期に求められた保育者の資質について考察することを目的とした。

2. 保姆の位置とその役割

「保姆」という名称については、「保姆ノ名稱ハ十四年中廢止セリ蓋シ英語『ナールス』ヲ譯シテ保姆トシタレドモ元来『ナールス』トハ人家ノ雇人トナリテ幼稚ノ保

育ニ任スル者ノ稱呼ニスギズ。而シテ幼稚園ノ保育ヲ掌ルモノヲバ彼國ニテモ別テ『キンダーガルテナー』『キンデルガルテンチーチャー』ト稱スルニヨリ自ラ幼稚園教員トスルコト適當ナラントニテナリ」⁵⁾と小西信八は述べているが、「幼稚園保姆」という名称は1946年まで使われ続けた⁶⁾。

幼稚園保姆の資格を明確に規定している最初の文書は、1891年公布の文部省令第十八号「幼稚園図書館盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立學校等ニ關スル規則ノ事」である。その第一条において「幼稚園保姆ハ女子ニシテ小學校教員タルヘキ資格ヲ有スル者又ハ其他府県知事ノ免許ヲ得タルモノトス」⁷⁾と記されている。ただ、何故女子に限定しているかについての文書は見当たらない⁸⁾。

先述した東基吉の「婦人と子ども 第三卷第九号」「幼稚園案内」⁹⁾と題した雑録には、「女子の職業としての保姆」という項目で、電話交換手、郵便事務員、会社や商店などにも女子を採用していると、女子の職業選択が広がりを見せていることを紹介している。そして、保姆という職業についての概略が述べられている。

そこでは、女子の天性などから考えて適しているのは教育事業に携わることだと提案する。その理由として、母になり家庭において幼児保育の任に当たらなければならぬのだから、その準備として幼稚園保姆を経験することは将来の準備をしていることと同じであると紹介している。そして、今なら尋常科の准教員の資格を得れば幼稚園保姆になれば、自分だけ食べていける俸給を得

ることもできるので、「女子に執りて、至極適當した事業だと思ふ」¹⁰⁾と述べている。

3. 明治後期の園数・保育者数・園児数¹¹⁾

明治後期の園数・保育者数を表1に、園児数を表2に表示した。

表1 明治30年～41年 園数及び保姆

	園数					保姆				
	高師	師範	公立	私立	計	高師	師範	公立	私立	計
明30	1	12	114	55	182	3	5	198	88	294
大阪	0	1	39	0	40		2	84	0	86
明32	1	10	124	54	189	4	4	240	95	343
大阪	0	1	37	2	40		2	82	2	86
明34	1	10	131	68	210	6	11	369	164	550
大阪	0	1	39	4	44		3	113	5	121
明36	1	9	132	96	237	5	14	385	217	621
大阪	0	1	40	2	43		1	123	3	127
明38	1	11	128	130	270	6	12	369	303	690
大阪	0	1	40	2	43		1	141	3	145
明40	1	12	148	175	336	4	10	415	459	1066
大阪	0	1	47	2	50		0	175	3	178
明41	1	12	148	197	358	5	14	442	521	982
大阪	0	1	45	1	47		0	179	3	182
保姆助手は含まない										

表1は、明治30年からの園数等であるが、明治9年の幼稚園創設から21年で181園増え、幼児教育に関心が持たれるようになったと考えられるが、5歳児の就園率を示すと、明治29年は0.7%、明治34年は1.0%、明治39年は1.4%、明治44年は2.0%であったことから、幼稚園に通園する子ども達は非常に少なかったことがわかる¹²⁾。

就園率の低さに比して、学齢児童の就学率は、明治29年は50.3%、明治34年は64.2%、明治39年88.1%、明治44年96.6%と非常に高く、「邑に不学の子なく」という国の意向が全国に浸透していたことが窺える¹⁴⁾。

「保姆試験問題」を雑誌に掲載した大阪府は、明治12年に「世上ノ母トナル者其心必其嬰兒ノ成立ヲ欲スルハ人性ノ自然ニ出テ他人ノ教導ヲ待スト雖モコレヲ愛撫養育スルニ法ニ至リテハ(略)」という設立主意書等を提出、同年5月に「大阪府立模範幼稚園」を創設した。

〈表1〉〈表2〉ともに、大阪以外の地域と大阪を2年ごとに表示した。園数に関しては、〈表1〉からも分かるように明治30年に大阪を除く公立幼稚園は114園であったが、大阪府だけで39園あり、全国で公立幼稚園が一番多い都市であった。そのため保姆の確保が課題であり、府独自の筆記試験を行ったり、幼稚園に付設した養成機関の設置や東京高等女子師範学校保姆練習科へ学生を派遣したりしていたのであろう。

表2 明治30年～41年 園児数

	男児				女児				計
	高師	師範	公立	私立	高師	師範	公立	私立	
明30	120	390	5509	1492	103	334	4595	4384	13927
大阪		40	3040	0		51	2669	0	5800
明32	69	359	6625	1600	72	274	5478	1429	15906
大阪		46	2972	63		43	2712	62	5898
明34	85	325	6778	2115	79	266	5767	2019	17434
大阪		47	3092	120		41	2819	118	6237
明36		331	6920	3033	84	265	6171	2749	19628
大阪		38	2098	64		52	2862	61	5175
明38	81	375	6822	4154	76	328	6268	3803	21907
大阪		47	3365	53		43	3174	44	6726
明40	79	438	7897	6081	74	399	7310	5497	27775
大阪		44	3888	47		40	3413	28	7460
明41	86	491	7818	7037	81	458	6949	6210	28963
大阪		44	3604	32		40	3298	24	7042

4. 大阪府幼稚園保姆検定試験問題と傾向¹⁵⁾

〈表3〉は『京阪聯合保育會雑誌』に掲載された、大阪府の保姆検定試験問題の出題順に概略を捉え、年度をあけて表示したものである。検定試験問題は本紙が創刊された第1号から毎年掲載されていたが、第20号以降に検定試験問題は掲載されていない。これについては、明治41年12月に発行された第22号「幼稚園保姆免許規則中改正」¹⁶⁾と題した文書が関係しているのではないかと考えられるので、その規則の一部を以下に記す。

幼稚園保姆免許規則中改正

明治三十三年(九月)大阪府令第六十二號幼稚園保姆免許規則第六條に試験科目及び其程度を左の通り改正し明治四十一年四月一日より施行す

明治四十一年二月十日

大阪府知事 高碕親章

- 一 修身 道德の要旨
- 一 教育 幼児保育の方法
- 一 國語 小學校教科用讀本の講義併作文習字
- 一 算術 整数、分數、少數、諸等數、歩合算、比例
- 一 歴史 日本歴史の概要
- 一 地理 日本地理及び外國地理の概要
- 一 理科 博物、物理、科學の初歩
- 一 圖畫 簡單なる自在畫
- 一 音樂 單音唱歌および樂器使用法
- 一 体操 遊戲

先の表とここで示されている科目及び内容が、検定試験問題と近似していることがわかる。しかし、この改正規則の発令と試験問題の不掲載との関係について明確な文書は見あたらない。

明治後期における保育者の資質の考察

〈表 3 大阪府幼稚園保姆検定試験科目〉

	1号 M31. 7	3号 M32. 10	6号 M34. 5	12号 M37. 7	18号 M40. 1	20号 M40. 12
1	修身科 2問 勅語の解釈 言葉の説明	修身科 2問 勅語の解釈 2問	修身科 2問 勅語解釈 1問 保姆の務め1問	保育科 2問 保育内容 恩物	国語科 文章理解 1問＋漢字の読み1 0個 作文1問	修身科 2問 文章解釈 1 勅語の解釈 1
2	幼稚園管理科 3問(環境構成 ・保護者対応等)	幼稚園管理科 3問	保育科 3問 保育内容 2問 資質 1問	算術科 4問 文章題 3問 分数筆算 1問	保育科 2問 幼稚園保育について・遊び の重要性	保育科 2問 自由遊戯 1 自然との関わり1
3	教育原理 3問 教育方法 1問 保育内容 2問	教育原理 3問	国語科 5問 文章理解1/読み2 作文－普通文・書簡文各1問	地理歴史科 地理 3問 歴史 2問	算術科 文章題 4問	国語科 文章理解1＋漢字の読み 作文 1
4	保育科 4問 保育内容 2問 恩物 2問	保育科 4問	算術科 2問 算術(珠算)科 2問	理科 自然科学2 化学1 保健1 物理1	図画科 臨画 芙蓉 想像画 山水	習字科 習字4文字 楷行草 書 行書－書写
5	地理科 5問	地理科 5問	算術(筆算)科 文章題 2問 分数筆算1問	国語科 習字 4文字 楷行草書	音楽科 唱歌長音階＋3曲／ 楽器イ調・変ロ調＋3曲	算術科 文章題 4問
6	歴史科 4問	歴史科 4問	地理歴史科 地理2／歴史2	修身科 2問 文章説明 2問	遊戯科 遊戯 4種	地理歴史科 歴史2／地理2
7	読書科 文章理解2 文 法 2	読書科 文法 2 文章理解 1	理科 自然科学3 化学1 物理1	図画科 1問 臨画 桜花	習字科/習字4文 (楷行草) 書写	理科 自然科学3 物理1 化学1
8	作文 書簡文 1 普通文 1	作文科 書簡文1 普通文 1	習字科 5文字 楷行草書	音楽科 唱歌3曲＋音階 ／楽器3曲＋音階(ヘ調 ・ホ調)	修身科 2問 文章解釈 1 勅語の解釈 1	図画科 5題 太陽・山・人・魚・汽車を描く
9	習字 5文字 楷行草書	習字科 4文字 楷行草書	図画 臨画(牝鹿の頭)／製 作(笛と太鼓の画を作る)		理科 自然科学3 物理1 化学1	遊戯科 進行遊戯1／遊戯3
10	算術科(筆算) 文章題 6問	算術科(筆算)6問				
11	算術科(珠算)3問	算術科(珠算)3問				
12	理科 自然科学3 化学3 保健 1	理科自然科学2化学2保 健1 物理1				
13	音楽科 唱歌3 風琴4／理論 2	音楽科 唱歌3 風琴4／理論 2				
14	図画科 臨画 牛 想像画 珠と羽根 模様トリダスキ					

さて、最後に掲載された明治40年10月に執行された試験問題を、前述の免許規則に沿って各科目1問ずつ提示したい¹⁷⁾。

- 一 修身 公職ニアル者ノ責任ニツキテ述ブベシ
- 一 保育 幼児ヲ自然物ニ接近セシムルニツキテノ目的ヲ問フ
- 一 國語 左ノ文ノ漢字ニ假名ヲ附シ且_____ヲ施シタル所ヲ解釋セヨ (文章略)
- 一 算術 或人甲地ヨリ乙地ニ行クニ毎時ノ速サヲ三十三町トセバ豫定時ヨリニ時間後ルヽヲ以テ五十六町ノ速サトセシニ豫定時ヨリ一時間早く着セリト云フ其地ノ距離何程ナルカ
- 一 歴史 紀元元年ヨリ本年迄ノ年數及御歴代數ヲ問フ
- 一 地理 日本ノ周囲ノ海洋ノ名ヲ問フ
- 一 理科 柿ノ果實ニツキテ説明セヨ
- 一 圖畫 幼児ニ適當シタル表シ方ニヨリテ左ノ數種ノモノヲ別々ニシテ畫ケ
太陽、山、人、魚、汽車
- 一 遊戲 進行遊戲、秋ノ庭、桃太郎、鳩

このように、検定試験は免許規則に沿い作成されていることが窺える。

更に、明治41年7月発刊の第21号には、「全國幼稚園調査」¹⁸⁾結果に関する記事が掲載されている。「保姆ノ試験ニ關スル事項」には、保姆試験を行う府縣は18府県であり、28が行っていない。また、検定試験の標準が府県で異なっていることなどが記されている。共通の学科目とその内容が提示されているので、その一部をここで紹介する。

- 修身 道德ノ要旨
- 教育 幼児保育法ノ大要
- 國語 普通文ノ購讀作文習字
- 圖畫 簡單ナル自在畫
- 音樂 單音唱歌及樂器使用法
- 算術 整數少數分數ノ加減乗除及單比例
- 地理、歴史、理科、體操ヲ試験セザル府縣アリ

これらは全国的に同様の科目と考えられるが、特例として各県独自の方法がとられていることなども記されている。

5. 保育者の資質について

亀山ていは、誰でも特別な準備や適応なしに幼稚園保姆になれるという一般的な意見に対し、幼児教育に携わる人間は、幼児期が人格形成において重要な時期であることを理解し、忍耐力と愛を持つことが求められていると述べる。更に、理論と実践においては、子どもたちが秩序正しく習慣づけられているかを注意深く、素早く観察することが大切であり、覚えておくべき重要な項目であると続けている¹⁹⁾。そして、事例として、子ども達は保育者が興味を持つことに興味を持つ傾向にある。即ち、保育者の模倣をすることは自然の傾向であり、保育者が行うように真似をするので、子ども達の明るい未来のためには、自分自身がきちんと目的を持って努力しなければならないと表現している²⁰⁾

ことから、「保姆は子守り」という世間からの非難に対して、保育者の役割や資質について理論的に発言していると言えよう。

また、先述した東基吉は「幼稚園案内」中「保姆の資格」²¹⁾において、次のように述べている。

- 一 身體の強壯。身體が弱くては、中々幼児の面倒が見えぬ。
- 二 慈愛同情に富むこと。幼稚園のことは、他の教育事業よりも餘程献身的の分子が含まれる。
- 三 忍耐。不忍耐という言葉は到底、こゝでは禁句である。詢々として倦まずたゆまない愛情を以て感化することを力めねばならぬ。
- 四 快活。しょっちゅう陰氣で曇り勝ちの人は面白くない、一體が快活な子供のことだから、指導の任に當る人も餘程快活でなくてはいかぬ。自然と薰化を與へる的の徳操も言はずもがな、要するに此點に於ては成るべく品格が高くなくては行かぬ。
- 五 智識。いろいろな理科博物其他文學上の智識に富んで居ることを要する。然も之を子供っぽく表出する技能が必要だ、何によらず子供は問ひたがる、之に向かつて極めて子供らしく、併も眞理に合った答をしなければならぬ。従って保姆たる人は、何れ讀書の嗜は勿論、萬事につけて研究心に富んで居なければならぬ。
- 六 以上は先づ、一般普通的資格といつてもよい。而して特別の資格として茲に、教育の理法と術と、殊に幼児保育の理論方法を心得べきこと、従つては、兒童精神發達の理法即兒童心理學及び生理學、衛生等の一般の知識をも持って居ねばならぬ。

ここから窺えることは、東は女子の職業として保姆を紹介し勧めてはいるが、その実、女子であれば誰でも保姆になれるものではない現実や学ぶべき内容を明確にそして具体的に示している。即ち、「一〜四」は保育者の資質、「五」は「理科博物其他文學上の智識」と述べているように一般教養といえる基礎知識を持つこと。そしてここまでが一般的な資格であるとし、「六」で「幼児保育の理論方法、兒童心理学、生理学、衛生」という専門知識について言及している。「五 智識」の中の文中に「何によらず子供は問ひたがる、之に向かつて極めて子供らしく、併も眞理に合った答をしなければならぬ。」と述べているように、幼児の質問に対して、幼児が理解できる言葉で幼児が納得するようにその

ものの真理を伝えることができるのが保育者であると考えているといえよう。即ち、保育者としての基本的資質として「一～五」は、幼児の興味関心に適切に対応する力として必要であり、これを土台として「六」の専門的知識が積み重ねられて初めて、専門的職業としての保育者であると考えられる。東は保育者の資格を「母(女性)」に求め、資質を「教師」に求めているのではないと思われる²²⁾。

東は『教育大辞書』の「保姆」の中で、保育者養成に必要な科目として「教育學(教育史・教育學の理論・教授訓練の方法)・保育法(保育の理論と實地練習)・心理學(普通心理學・児童心理學)・生理學・衛生學・育児法・看護法・體操・遊戲・音學等」²³⁾をあげている。これらからも、保育の専門家として保姆が広く認められるには、資格認定の基準のレベルアップが必要であり最低限、上述の科目の修得が必要であると考えていたことが窺える。

6. おわりにかえて

現在も、保育者の資質について多様な視点から研究されているが、保育者の緒である明治期においても、幼児教育に携わる者の資質について、多面的に捉えられていたことを研究を通して明らかにすることができた。明治期においては、教育学・心理学・生理学など教師養成にかかわる教科書は、翻訳本による学習が中心であったと推察されるが、幼児教育に携わるには、現代同様の科目を学ぶことが求められており、そのための検定試験の内容も、それらに沿ったものであったことがわかった。

ここで述べてきたのは明治後期の保育者の資質の形成や専門的知識の修得についてであるが、教師は「幼児と共によりよい教育環境を創造するように努める」²⁴⁾と現 幼稚園教育要領に述べられているように、現在も重要な意味を持つといえよう。

今後は資質及び知識の習得について、幼稚園保姆資格試験の問題を詳細に分析し、その傾向等から「保育者の資質」を研究していくことを目的としたい。

〈引用・参考文献〉

- 本論文では、雑誌等の掲載文について、なるべく雑誌の書字体(旧字体)に沿って表記した。
- 1) 『京阪神聯合保育会雑誌』は、関西地区の京都・大阪・神戸の三市それぞれの保育会が「保育上一切の事項を審議研究するため」に 1897 年「三市聯合保育会」を結成し、会の

- 機関誌として聯合保育会の研究結果の収録等のために他の保育会に先駆けて 1898 年創刊された。
- 2) 『女學雑誌-THA WOMEN'S MAGAZINE- 第七十五號』1887 p. 100
復刻版『女學雑誌』臨川書店 1966
『ジーニアス英和辞典 第 3 版』大修館書店 2001 p. 1034 「幼稚園の教員」と掲載されている。
本研究では、一般的に使用されている「保母」ではなく、当時使用されていた「保姆」表記を使用した。
 - 3) 『幼稚園唱歌』共益商社 1901.7 編者・作詞・作曲者の明記はないが、作詞者として東くめ・巖谷小波ら、作曲は瀧廉太郎らであったと考えられている。(遠藤宏『明治音楽史考』による)
 - 4) 東 基吉『幼稚園保育法』目黒書店 1904
岡田正章監修『明治保育文献集 第七巻』所収 日本ライブラリ 1977
 - 5) 倉橋惣三・新庄よしこ『日本幼稚園史』臨川書店 1934 pp. 94-95
 - 6) 「保姆」という名称は、1946 年「幼稚園令中一部改正」第 7 条において「保姆ヲ幼児ノ保育ヲ掌ル職員ニ改メル」と改めて定義された。しかし第 9 条において「幼児ノ保育ヲ掌ル職員ハ女子ニシテ」と性別指定は従来通りであった。
 - 7) 文部省『幼稚園教育百年史』ひかりのくに 1979 p. 504
 - 8) 1947 年「学校教育法 第 81 条」において、「幼稚園には、園長及び教諭を置かなければならない」と「教諭」という呼称とともに「女子にして」という性別表示がなくなった。
 - 9) 幼児の教育復刻刊行会『復刻・幼児の教育 第三巻』名著刊行会 1979
『婦人と子ども 第三巻 第九号』東基吉「幼稚園案内」1903.9 pp. 44-49
 - 10) 同上書 p. 46
 - 11) 文部省『文部省年報』
第二十五年報～第三十六年報下巻 芳文閣
園の項目中、高師は「高等師範学校(官立)」であり、この期においては、東京女子師範学校のみであった。また、大阪については、大阪府の保姆試験問題が研究対象であることから、大阪の状況を抽出して表記した。
 - 12) 同上『幼稚園教育百年史』「第 1 表 年度別幼稚園数、幼児数、教員数及び 5 歳児就園率」より pp. 820-821
 - 13) 同上『幼稚園教育百年史』「第 5 図就園率(5 歳児)の推移と就学率の推移」より p. 826
 - 14) 文部省 前掲『幼稚園教育百年史』p. 808
 - 15) 京阪神聯合保育會編『京阪神聯合保育會雑誌 一～三』臨川書店 1983
 - 16) 同上『京阪聯合保育會雑誌 第貳拾貳号』1908 p. 53
 - 17) 同上『京阪聯合保育會雑誌 第貳拾号』1907 pp. 36-37
 - 18) 同上『京阪聯合保育會雑誌 第貳拾一号』1908 pp. 62-64
 - 19) 前掲『女學雑誌 第七十五號』p. 100
 - 20) 『女學雑誌 第七十六號』p. 101
 - 21) 前掲『婦人と子ども 第三巻第九号』pp. 47-49
 - 22) 柿岡玲子『明治後期幼稚園保育の展開過程』風間書房 2005 pp. 234～235
 - 23) 東基吉「保姆」『教育大辞書』同文館 1918 p. 1746 『復刻 教育大辞書』所収 日本図書センター 1997
 - 24) 文部科学省『幼稚園教育要領(平成 29 年告示)』フレーベル館 p. 5